

あきる野市教育委員会 12月定例会会議録

- 1 開催日 平成26年12月24日(水)
- 2 開催時刻 午後2時00分
- 3 終了時刻 午後3時12分
- 4 場所 あきる野市役所 5階 505会議室
- 5 日程
日程第1 報告事項(1)平成26年度全国学力・学習状況調査について
日程第2 報告事項(2)平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果について
日程第3 報告事項(3)平成26年度秋川流域市町村視聴覚教育協議会決算の認定について
日程第4 教育委員報告
- 6 出席委員
委員長 山城清邦
委員長職務代理者 田野倉美保
委員 丹治充
委員 宮田正彦
教育長 宮林徹
- 7 欠席委員 なし
- 8 事務局出席者
教育部長 森田勝
指導担当部長 肝付俊朗
生涯学習担当部長 山田雄三
教育総務課長 小林賢司
教育施設担当課長 丸山誠司
指導担当課長 西山豪一
学校給食課長 木下義彦
生涯学習スポーツ課長 関谷学
スポーツ・公民館担当課長 岡野要一

図	書	館	長	松	島	満
指	導	主	事	梶	井	ひとみ
指	導	主	事	瀧	澤	久雄

9 事務局欠席者 なし

開会宣言 午後 2 時 0 0 分

委員長（山城清邦君）

皆さん、こんにちは。それでは、時間になりましたので、ただいまからあきる野市教育委員会 12 月定例会を開催いたします。本日は、教育委員全員が出席しており、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 13 条第 2 項に規定する定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

それでは、議事日程に従って会議を進めます。

議事録署名委員につきましては、田野倉委員と丹治委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。日程第 1 報告事項（1）平成 26 年度全国学力・学習状況調査について、報告者は説明をお願いいたします。

梶井指導主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

よろしくお願いいたします。では、本日机前にお配りいただきました資料、平成 26 年度全国学力・学習状況調査について報告させていただきます。

調査の目的については、各自お読みいただけたらと思います。

2、調査対象でございますが、（1）、小学校調査につきましては小学校第 6 学年、（2）、中学校調査につきましては中学校第 3 学年を対象としております。

3、調査事項につきましては、児童生徒に対する調査ということで、①、教科に関する調査で国語と算数・数学がございます。教科については、国語 A、算数 A、数学 A、主に知識に関する問題と国語 B、算数 B、数学 B、主に活用に関する問題ということで分かれています。また、②としまして、児童生徒の質問紙調査もございます。そのほか学校に対する質問紙調査もございます。

4、調査日につきましては、平成 26 年 4 月 22 日の火曜日でございます。

おめぐりいただきまして、5、調査結果の概要と考察です。平成 26 年度の調査と平成 25 年度の調査では、単純な比較はできませんが、調査方法や内容が重なる部分もあるため、考察の際は参考値として取り扱っております。

まず、（1）、教科に関する調査、①、各教科の平均正答率についてです。東京都とあきる野市を比較すると、全ての教科において平均正答率を下回っております。しかし、平成 25 年度と比較すると、中学校の国語 A、B を除いて都との差は小さくなっております。②、学習指導要領の領域別平均正答率です。これは、それぞれの観点について比較したものでございます。特にこちらについては詳しく説明いたしません。お読みいただければと思います。

（2）、児童生徒への質問紙調査結果です。こちらについては、特に教科の調査結果と関係が深いと思われる授業に関わる質問と家庭での学習状況の結果について載せてあります。まず、授業に関わる質問ですが、平成 25 年度と比較すると小学校、中学校ともにふだんの授業について「グループで調べる学習をよくおこなっている」「自分の考えを発表する機会が与えられている」「話し合う活動をよくおこなっている」の質問において肯定的な回答

の割合が増加しております。東京都と比較すると、今年度は小学校においてはふだんの授業について「グループで調べる学習をよくおこなっている」「自分の考えを発表する機会が与えられている」「話し合う活動をよくおこなっている」の質問において肯定的な回答の割合の差が小さくなっております。中学校においては、「グループで調べる学習をよくおこなっている」「話し合う活動をよくおこなっている」の質問について肯定的な回答の割合が都を上回っております。また、「自分の考えを発表する機会が与えられている」の質問については、都との差が小さくなっております。②、家庭での学習状況についてです。平成25年度と比較すると、小学校、中学校ともに家での予習及び復習については肯定的な回答の割合は増加しております。小学校、中学校ともにふだんの勉強時間が1日当たり30分以上の児童生徒の割合も増加しております。また、小学校、中学校ともにテレビやゲーム等の時間は減少しております。東京都と比較すると、小学校、中学校ともに1日当たりの学習時間は少ないですが、差は小さくなっております。

考察についてです。教科に関する結果から、平均正答率については都と比較すると差が小さくなってきたものの、まだ下回っております。平成25年度と同様に、下の学年で身につけておくべき基礎的、基本的な知識、技能の定着状況が十分でないこと、資料を比較したり関連づけたりして得た考えを自分の言葉で表現することに課題があります。質問紙調査結果からは、児童生徒は授業中に「調べる」「発表する」「話し合う」などの活動を行っているという認識が高くなっております。これは、各学校が授業改善を図った結果と言えます。

今後は、目的に応じたグループ活動のよさを味わわせ、思考を深めたり新たな発見を体験させたりするなど、さらに授業を工夫していく必要があります。

家庭での学習状況については、テレビやゲーム等の時間が減少し、予習及び復習をしている児童生徒の割合が増えたものの、都と比較すると平成25年度と同様に普段の1日当たりの学習時間が少ないところでございます。

あきる野市では、小中一貫教育の推進による中学校区ごとの9年間を見通した指導の充実、補充的な学習の時間の活用、授業改善推進プランの実践などにより基礎的、基本的な知識、技能の定着を図り、思考力、判断力、表現力等を育む取り組みを行っております。各学校においては、全学年を通じて授業の冒頭での目標を示す活動と授業の最後に学習したことを振り返る活動を行うこと、1単位時間で身につけたい力を明確にした授業を行うことで学力の定着を図る必要があります。また、各家庭に対しても学習時間や予習、復習などの必要性について理解啓発を進めることが重要であると考えます。

以上が平成26年度全国学力・学習状況調査についての報告でございます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

今報告いただきましたけれども、次の報告事項（2）と同じ性質の報告かと思っておりますので、ご質問がありましたら、次の報告事項（2）が終わってからでよろしいかと思っております。

それでは、ただいまの件は報告として承りました。

続きまして、日程第2 報告事項（2）平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査結果について、報告者は説明をお願いいたします。

梶井指導主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

では、資料をご確認いただけますでしょうか。こちらも本日机上配付させていただいております。平成26年度児童・生徒の学力向上を図るための調査について報告させていただきます。

こちら、1、目的につきましては各自お読みいただけたらと思います。

2、実施日は平成26年7月3日の木曜日です。

3、調査対象につきましては、都内の公立小学校の第5学年と都内の公立中学校第2学年でございます。

4の調査内容につきましては、学力調査、学習に関する意識調査、学校に関する質問紙調査に分かれております。

教科につきましては、教科の観点と読み解く力に分けて問題が設定されております。教科の観点と読み解く力については、それぞれ説明がありますので、お読みください。

それでは、1枚おめくりいただきまして、調査結果の概要と考察について説明させていただきます。まず初めに、小学校です。小学校の(1)、学力調査についてです。全体の平均正答率につきましては、都と比較しますと全ての教科において平均正答率を下回っておりますが、平成25年度と比較すると国語、算数についてはその差が小さくなっております。また、観点別平均正答率につきましても全ての観点において平均正答率が下回っております。③の度数分布につきましては、それぞれの教科ごとの調査問題の正答者数の割合ということで、あきる野市が棒グラフ、東京都が折れ線グラフであらわしておりますので、それについてもご確認いただければと思います。

続いて、(2)の意識調査です。授業の内容はどのくらいわかりますかという質問に対して、理科については平成25年度と比較すると上昇していることがわかりました。また、授業がわかる要因につきましては、学習方法では都と比較して「自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから」「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」を選択した児童の割合は少ないところですが、平成25年度と比較すると特に社会や理科の授業では肯定的な回答の割合が増加しております。国語においては、都と比較して「国語の授業での先生の教え方が丁寧だから」を選択した児童の割合が多くなっております。児童の学習姿勢につきましては、わからないときの対応として「学校の先生に聞くから」を選択した児童の割合が少なくなっております。また、ウ、教科の特性については、国語については「読書が好きだから」、社会は「世の中のできごとを知ることが好きだから」、算数については「コースに分かれた少人数の学習があるから」「算数の問題にはいろいろな解き方があるから」、理科については「観察したり、実験したりする授業が多いから」「自分で予想し、それを確かめる授業が多いから」を選択した児童の割合は、他の項目と比較すると多くなっておりますが、平成25年度と比較すると全て少なくなっております。③家庭学習の時間についてですが、平成25年度と比較して家庭での学習時間が30分未満の児童の割合が増加しております。

2、中学校です。(1)、学力調査については、全体の平均正答率は都と比較すると理科が都を上回っております。他の4教科については、都と比較すると国語の差が一番大きく、

英語が一番小さく下回っております。平成25年度と比較すると、その差は小さくなっております。観点別平均正答率についても、都と比較すると理科、そして英語の教科の観点においては上回っております。教科別度数分布については、ご覧いただき、ご確認いただきたいと思っております。

(2)、意識調査です。授業の内容はどのくらい分かりますかについては、平成25年度と比較すると国語と英語が上昇しております。②、授業がわかる要因については、都と比較して国語と英語については「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」を選択した生徒の割合が上回っております。イ、生徒の学習姿勢につきましては、国語、社会、理科においては、わからないときの対応として「自分で調べるから」を選択した生徒の割合が都を上回っております。ウ、教科の特性については、国語、社会、数学、理科、英語につきましては、平成25年度と比較すると減少しております。数学、英語については、「理解の程度などによるコース別の授業があるから」を選択している生徒の割合は都と比較して非常に多く、平成25年度と比較しても増加しております。③、家庭学習の時間については、平成25年度と比較して家庭での学習時間が30分未満の生徒の割合が減少しております。

3、調査結果の考察についてです。小学校につきましては、学力調査の結果から都と比較すると平均正答率が低いですが、国語と算数についてはその差が小さくなっております。また、平成25年度と比較すると、読み解く力については都と市の差が小さくなっており、少しずつではありますが、学力の定着に向かって伸びが見られます。

意識調査の結果から、全ての教科において授業の内容が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」を選択している児童の割合が高く、わかる要因として平成25年度と比較すると「先生に聞くから」を選択した児童の割合が減少し、「自分で考え、考えたことを発表する授業が多いから」「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」を選択している児童の割合が増加しており、言語活動を中心とした授業改善が図られていることがわかります。しかし、都と比較しますとその割合は低く、また平均正答率も高いことから、自ら課題を追求したり、追求したことを発表したりするなどの言語活動を充実させて思考力等を育む授業へと改善を図ることが必要であると考えます。また、家庭での学習時間については、平成25年度よりも短くなっておりますので、今後も家庭での学習時間を30分以上確保するという学習習慣を確立できるよう指導していくことが大切であると考えます。

中学校につきましては、学力調査の結果から都と比較すると理科以外の教科について平均正答率が低くなっておりますが、その差は小さくなっております。また、平成25年度と比較すると国語の読み解く力を除いてそれぞれの観点で都との差は小さくなっており、学力の定着が図られつつあると言えます。

意識調査の結果からは、全ての教科において授業の内容が「よく分かる」「どちらかといえば分かる」を選択している生徒の割合が高いです。わかる要因として、平成25年度と比較すると国語や英語では「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いから」を選択した生徒の割合が増加し、都を上回っております。また、国語、社会、理科において、わからないときの対応として「自分で調べるから」を選択している生徒の割合

が都を上回っており、主体的に学習する姿勢がうかがえます。国語については、平成25年度と同様に学力調査の結果は平均正答率において都との差が最も大きく、「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする」などの言語活動が思考力等を確実に育むまでには至っていないと考えられ、より一層の授業改善を図る必要があると考えます。理科については、授業がわかる要因として、第一に「観察したり、実験したりする授業が多いから」、第二に「理科の先生の教え方が丁寧だから」という結果でした。このことから、実験と思考とを結びつけるような授業の工夫が学力調査結果において都の平均正答率を上回った一つの要因と考えられます。今後さらに「お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする」「自分で考え、考えたことを発表する」などの言語活動の充実を図ることで、読み解く力を高めることが期待できます。家庭での学習時間についても、平成25年度より長くなっております。これからも学習習慣の確立について家庭と連携を図っていく必要があると考えます。

以上で平成26年度児童・生徒の学力向上を図る徹底の調査結果についての報告とさせていただきます。ありがとうございました。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

今説明をいただきましたが、これに関しましてご質問ありましたらどうぞ。最初の報告事項（1）も含めてご質問ありましたら、どうぞ。

委員（丹治 充君）

よろしいですか。

委員長（山城清邦君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

小中学校の特色がおもしろい形で出ているなどと思って拝見いたしました。本市においては、少しずつ正答率が都に近づいているということでした。そういった中で、各学校それぞれ家庭学習の時間を増やそうと努力をされていると思います。小学校では25年度に比較して短くなっていて、一方中学校では25年に比較して長くなってきています。どういふことでこのような違いが出てきているのか、大きく小中学校で考え方が違うということはないと思いますので、その辺を分析してみたいかがあったでしょうか。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

梶井指導主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

家庭学習につきましては、各学校、特に中学校区でかなり力をあわせて取り組んでいくことになっておりますので、取り組む姿勢については各小中学校で頑張ってもらっているところかと思っております。ただ、結果としましては、年度にもよりますが、こういった形になっております。まだ、学校ごとの詳しい分析は出ておりませんので、今後改めて各学校の結果等を踏まえまして、それぞれの学校についてお示しをしていきたいと思っております。

以上です。

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

委員（丹治 充君）

はい。

委員長（山城清邦君）

ほかにご質問はありますか。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

平成26年度の全国学力調査と、都の調査と、双方ともあきる野市は学力的に厳しい部分があるけれども、今までより平均までの差は縮まってきているのではないかといった報告だったかと思います。そのことについては、非常に喜ばしいことだと思います。この調査は年度始まってすぐの4月、7月に実施されたので、今年度から始まった朝の補充学習の時間の成果などについては、まだあらわれていない時期だと思います。また来年度以降どういった結果が出るのか楽しみにしたいと思います。

ただ、あきる野市のほうで補充学習の時間をつくってくださいということでどの学校でも取り組んでいただいているのですが、その時間の活用の仕方が、生徒に全部お任せになっているように感じました。自主的な勉強ということで、それもすごくいいかもしれませんが、自分で丸つけもしていくというやり方ですと、自分でやったときにわからなかった生徒はどうするのかなど思いました。使用している教材のドリルなどは自分の学年よりも前の内容をやっているというお話でしたが、その内容がわかっていない生徒や児童に対するフォローが一体どのような形で行われているのかなと疑問に思いました。せっかく時間とって取り組んでいただいているので、それをどう活用していくか、その辺のことをもうちょっと各学校で考えていただけると、より効率的で、成果があがるようになっていくのではないかなと思います。

現段階では、取組内容については、各学校にお任せしているという状況なんでしょうか。

委員長（山城清邦君）

梶井指導主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

現時点では、取り組み方については各学校の実態に応じてやっていただいているところです。学力向上推進委員会、市の委員会等では、学力に対応したドリルの作成や活用方法について、学力調査等の分析を踏まえてどういった内容にすればよいのかといったような話をしているところです。またこの取り組みについて各学校で上手に活用しているところもございますので、そういったところを全体に広げながら進めていきたいと考えております。

委員長（山城清邦君）

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

こういった学力調査を行うと、基礎的な学習としてはある程度の学力の向上が見られる

けども、応用の部分でやはり低い点が見られるかと思います。この読み解く力については特にそうだと思います。関連づけて読み取る力や必要な情報を正確に取り出す力は、やっぱり応用力が必要で、基礎学力があった上でのものなので、ちょっと生徒にとってのハードルが高くなると思います。その辺、先生の発問や工夫の仕方などで子供は伸びやすいのかなと思います。その辺の学習方法というのは授業研究や小中一貫教育の研修の中で、少し細かい部分については行われているかどうかをお聞きしたいと思います。それともう一つ、朝の読書の時間を設けられていましたが、中には朝の読書がなくなって朝学習のみになっている学校もあると聞きました。朝読書は特に国語の読み取る力や応用問題に関連する部分だと思うので、その辺を各学校に任されていて、それをどう運用、活用しているかというところまで把握されているのでしょうか。その2点確認をお願いします。

委員長（山城清邦君）

梶井主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

読み解く力、読解の部分についてですが、各学校ではそれぞれの調査結果を分析しております。特に読み解く力、この部分が苦手な児童生徒が多い学校では、各学校で授業改善推進プラン等に取り組んでいただきながら、まず授業改善を図っていただいております。また、中学校区においてやはりその部分が非常に大きな課題であるとなっているところについては、その部分についての研究授業等も、研修等も含めた取り組みを行っていただいております。そういった部分で少し改善が図られ、調査結果にあらわれているといったようなところは出てきております。ただ、そういった取り組みについては今後市としても全体に広めていかななくてはいけないなと思っておりますので、今後進めていきたいと思っております。

それから、読書につきましても同様に大変大切だと考えております。各学校で時間を見つけて、朝時間がなければ午後の時間に取り組むですとか、時間を設定してやっていただいているところもあります。特に教育委員会のほうからこの時間という指示はしておりませんので、各学校、各中学校区での取り組みとなっております。

以上です。

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

委員（宮田正彦君）

はい。

委員（丹治 充君）

もう一点いいですか。

委員長（山城清邦君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

先ほども申し上げましたが、少しずつ上昇しているという点では指導室の先生方の各学校への指導、助言が大変丁寧に行われているのだろうなという気がいたします。この意識調査の中で、授業がよくわかる、どちらかといえばわかるという子供たちが多いわけです。

よね。ところが、実際の調査になると、思うように正答率が上がってきていないですね。単元を終えた際に、ドリルでもテストでもいいので、確認をしているのか、各学校に調査したことがありますでしょうか。

以上です。

委員長（山城清邦君）

梶井指導主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

ご指摘いただいたとおり、よくわかる、どちらかといえばわかるといった肯定的な回答の割合に対して、平均正答率が十分でないといったところにつきましては、単元毎にテスト等で確認しているかといったことについては、十分把握できておりません。やはり、この結果につきましては、各学校でさらに分析をしていただいて授業を改善していくということについては、教育委員会で各学校に指導していきたいと考えております。

委員長（山城清邦君）

よろしいですか。

委員（丹治 充君）

はい。

委員長（山城清邦君）

ほかによろしいですか。

では、私のほうから。学力調査の結果のときに前にもお話ししているかもしれませんが、教育者側的な観点からいうと、各市町村の平均所得などに差がありますが、それと学力というのは決して関係がないわけではないという一般的な理解があると思います。ただ、それと実際の学校現場でどのような授業が展開されているかも関係するかと思います。その辺よくわからなかったんですが、今年の調査データを見たときに、何か方向性が見えているような気がしました。ほかの委員さんからのお話にもありましたように、いろいろな要因がある中で、考えて発言する時間があるとか、グループで研究したことを発表する場が多いとか、そういったことが前回の調査に比べて増えているということと、今回の数値が右肩上がりになったということと何か関係があるのではないかなという気がします。平均所得が都内に比べて低いからだめなんではなくて、授業の方法を考えることによって地域の子供の学力を上げていく方法は、いろいろな要因の中の一つとして、学校現場にもあるのではないかなと私は今回の調査結果を拝見して感じました。

1つ教えていただきたいのは、自分で考えたことを発表する授業が多いから、お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いからという選択をしている児童が増えましたが、その割合は都と比較すると低いということが児童・生徒の学力向上を図るための調査についての6ページ目に載っております。把握されている範囲で結構ですが、この割合と学力の関係というのは他の市区町村と比べて差があるのかどうか。この割合がもっと高い市区町村は学力も高いのかどうか。もしご存じでしたら教えていただきたいなと思います。

それから、理科が特に高い理由として、実験と先生の教え方ということがありました。要因がそれだけなのかなという気が少ししますが、その辺はどのような分析をされたのかな

ということをお教えいただけましたらと思います。

梶井指導主事。

指導主事（梶井ひとみ君）

最初のご質問の児童生徒の意識調査の結果については、他の市区町村のものはデータがございませんので、わかりかねるところです。東京都が市区町村から抽出した学校の調査結果等进行分析したのを見ますと、やはり自分で考え、考えたことを発表する授業が多いからとか、お互いに意見を出し合ったり、学び合ったりする授業が多いからといったような回答をしている児童生徒の平均正答率が高いという、そういった相関の部分が見られるという分析を東京都がしております。そういう部分については特に読み解く力、学力の定着につながってくると考えられると思います。

理科につきましては、まだ詳しく分析等はできておりませんが、今回都の平均正答率を上回っております。やはり観察したり実験したりする授業が多いからという肯定的な意見が都を上回っていることや、それから自分で予習、復習をするからといった項目も他の教科と比べると都の回答を上回っております。理科については授業と、それからその後の予習、復習についてが、うまく関連しているというところもこういった結果の要因の一つかなと考えられます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

もう一つよろしいでしょうか。国語と社会が他の教科に比べて下回り方が高いのが何故なのかというのがよくわかりません。国語については、一般的に読書量とわかる、わからないというのは関係するということが言われているかと思います。社会についてはなぜなのかなというところが私には不可解なところなんです、その辺については何か見解はありますでしょうか。

指導担当部長（肝付俊朗君）

よろしいですか。

委員長（山城清邦君）

肝付部長。

指導担当部長（肝付俊朗君）

ご指摘いただきましたように、いわゆる各学校における授業改善については進んできているということが読み取れるかと思います。グループ学習や発表などで自分の意見や考えを述べるとか、そういった機会が増えてきていることが子供の評価からも言えるのではないのかなと思います。

委員長（山城清邦君）

それが明確に見えてきた感じがしています。

指導担当部長（肝付俊朗君）

そうですね。ところが、授業改善というものはこれで満点だというものではないと思います。改善の方向性はあったとしても、パーフェクトにするにはまだまだ工夫していく余地が多いのではないかと。そんな中で、国語や社会についてご指摘いただきました。数学や英語については少人数指導が非常に効果的に機能しているのではないのかなと思います。

少人数に子供を分けて、その中できめ細やかに子供たちの指導を展開することで数学、英語について効果が出ているのではないかと思います。国語、社会については、発表の機会やグループ学習などの機会は確かに増えてはいますが、果たしてそれが教科や単元の目的に見合ったグループ学習になっているのか、発表の機会になっているのかということについては、まだまだそこには課題がある可能性があるかなと思います。特に国語、社会については言語活動を充実させているんなことを発表させたり、考えさせたりグループで検討させたりということはやっています。子供の表現力や自分の発表につながっていくかどうかということについて、まだまだこれから工夫していかなくはないと考えております。

委員長（山城清邦君）

方法論としては、社会も国語も同じ方向性に向かって進んでいくことには間違いはないということですか。

指導担当部長（肝付俊朗君）

そうですね。

委員長（山城清邦君）

先生の熟練度など、経験が積まれていけば期待を持てるということですね。

指導担当部長（肝付俊朗君）

そうですね。経験と研さんを積んでいくということが非常に重要かと思っています。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

教育長、何かございますか。

教育長（宮林 徹君）

家庭学習をどうするかということも大きな課題だと思います。さりとて家庭が学習する環境になっているのかどうかということは、また別の問題としてあるわけですが、家庭学習をしっかりさせるという視点は、維持したほうがいいと思います。実は先日秋留台高校の学校運営協議会に、委員として出席しました。そして授業を見せてほしいと事前に言っておいたので午後授業を見てきました。ベーシック授業というのをやっていました。ベーシック授業ツアーというのを1年生と2年生の全クラスがやっていました。どんな授業なのかなと思ったら、基礎基本なんです。40人ぐらいの生徒がいたけど、音が一つもしないんです。静かに教科書ではなくてプリントを一生懸命やっているわけです。どの教室にも2人先生がついていて、授業を一生懸命やっているんですね。百ます計算とか、漢字の書き取りとか、まさに小学校の内容なんだよね。小学校の子供が大きな升に漢字が書いてあるプリントがあって、その言葉を使った熟語を書いたりするんですね。それはもう40人が40人話もしなきゃよそ見もしないでやっているんですね。やることははっきりわかっているから、静かなんだと思うんです。わからないことがあったら、ふらふらし出すだろうしね。わかることをしなさいと言われて、それを受け身ではあるけども、全部わかるから、やっているわけですね。それが高等学校1年と2年の全クラス、どのクラスに行ってもその時間は同じことしてるの。その時間が1週間に2時間か3時間あるそうです。国語の授業では多少ざわざわするらしいと聞いたときに私は、わかることをやらせた

ら静かに取り組むんだなと思いました。

さて、家庭学習のことだけど、家庭学習をやってきたさいと先生が言うときに、どんな子供でも一人でもできる内容の家庭学習の課題を与えると。宿題を出すなどして、家で必ずやって来なさいと。今日やったことの復習だからと。やったけれども、どうしてもわからなかったところは、明日必ず質問しなさいとか、そういう課題を与えて家庭学習をしっかりして来なさいという家庭学習のさせ方をすれば、家に親がいなくても自分一人でわかるから、するんじゃないかなとかねてから思っていました。家庭学習というと、何をやらせようとしているのかが見えてこないんです。小学校の宿題は単純だから、漢字を5つ全部書いて来なさいとかいうのもあるけれども、それがまさにベースになる学習だと思うんだよね。その辺のところをやっているいきながら、授業で勝負していくということをやっているかといけないんじゃないかなと。秋留台高校の1年生、2年生にはチームティーチングでどのクラスにも2人ずつ先生がついているのでサボれないし、わからなかったら、すぐ質問できるよね。それは、まさにベースになる勉強だろうと思いました。

委員長（山城清邦君）

家庭学習、あるいは宿題の出し方というのは、方法論としては確立しているものがあるのでしょうか。現場の判断によるのでしょうか。

肝付部長。

指導担当部長（肝付俊朗君）

家庭学習ということ言えば、今教育長がおっしゃったように宿題ということで、これをしてきたさいというのが一番子供にもわかりやすいのかなと思います。中には、これについて調べてきたさいと題材を出す場合もありますが、今お話にありましたようになかなか一人ではできる子とできない子がいるということがあります。ですから、家庭学習をどのように授業と連動させていくかということはとても大事だと思います。必ずやったからにはそれを評価する、あるいはそれを使って授業をする、だからこそ家庭学習をやったとこないとその授業がわからないんだよと、あるいはその授業がわかるための土台として家庭学習をやってくると。やってきたからこそこの授業がわかるなという、そういう連動というものはとっても大事だなというふうに思います。

ですから、ただ単に補う学習だけではなく、授業といかに連動させて家庭学習が効果的に機能するような、そして必ず誰もがそれにチャレンジし、そして一人一人が回答を持って臨めると、あるいはやったことによって授業に前向きに取り組める、あるいは復習という形で、授業でやってきたことがなお家庭学習することによってわかったというような連動性というのが大事だなと思います。

委員長（山城清邦君）

丹治委員。

委員（丹治 充君）

子供は習っても1時間たった後だと結構忘れていきますよね。そういった意味で家庭学習というのは、反復学習とも言えるだろうし、家に帰って今日習ったことを最低限もう一回復習するのと、やらないのでは、自分のわからないところがわかったり、逆にわからないところがわからない、そういった勉強の仕方が私は大事だろうと思います。各学校でも少人数

指導の中では、例えば基本をゆっくり丁寧に教えるクラスと、普通の進度で学習するクラス、そして、発展的に演習問題等を扱う進んだクラスの3段階でやっていければ、進んでいるクラスについては、来週はこの単元やるから、勉強してきなさいということもできるのではないかと思います。先ほど、教育長がおっしゃっていたように、宿題の出し方については職員間で共通理解を図らないと、指導者がかわると全く違った形の家庭学習の提示が行われたりしますので、各学校でもう一度家庭学習についても考える必要があると私は思います。

教育長（宮林 徹君）

私は、現職のとき国語の教師でしたが、毎回の宿題は、次の授業でここからここまでのページを読むと。そのページの中に出てくる難しい漢字の意味、わからないものは調べてきなさいと。漢字の意味をわからないようにしてくるんじゃないぞという宿題は毎回出していました。予習だよ。今日やったことを復習してきなさいという宿題は国語については割と出しづらい。明日読むページの中にある漢字は全部調べて意味をノートに書いて、そのノートをずっととっておかせると勉強してきた子は難しい漢字の読みも何だって読めるんだよね。そういう予習の宿題を出したね、常に。それは、単純だから辞書の引き方だけ教えてあげれば一人でできる一番簡単な内容だよ。

委員長（山城清邦君）

肝付部長から国語と社会が現在少人数教育の対象になっていないというお話もありました。先日、増戸小中学校、増戸学園の9年間の工程表を見ましたら、小学校の高学年からチームティーチングが入ってきていました。具体的にどう展開されているのかわかりませんが、見たときにすごく嬉しく思いました。そういった方法論というか、形態からもっともっと迫っていく余地があるのではないかなという気がします。今回の調査結果についても、少し先が見えてきたような、未来が明るくなってきたような気が正直言ってしています。

最近どこの学校行っても、就学援助を受けている子供が増えていると話を聞いて、本当に気持ちが暗くなってきます。その子たちは都立高校しか進学時に選択の余地がないですよ。私立学校には行けない。もしかすると学校の授業を補うための塾に行く余裕もない。となると、その子たちにとっては学校しか勉強を与えてくれる機関がないわけです。これは公立学校の使命だと思いますが、ぜひ研さん積んでいただいて、行政としてもやることがあるかと思いますので、子供たちの学力向上のために本当に全力を挙げていただきたいなと最近特に強く思っております。

何かほかにご質問ありますか。よろしいですか。

《なし》

委員長（山城清邦君）

それでは、本件は報告として承りました。

続きまして、日程第3 報告事項（3）、平成26年度秋川流域市町村視聴覚教育協議会決算の認定について、報告者は説明をお願いいたします。

肝付部長。

指導担当部長（肝付俊朗君）

平成26年9月1日付で廃止となりました秋川流域市町村視聴覚教育協議会の平成26

年度歳入歳出決算について、協議会規則第30条第2項の規定により、平成26年第4回あきる野市議会定例会に上程し、平成26年11月27日に認定されたため報告します。

この秋川流域市町村視聴覚教育協議会は、あきる野市、日の出町、檜原村の1市1町1村で構成されておりましたが、平成26年9月1日付で廃止となりました。平成26年3月議会において協議会廃止の議決後、構成市町村による廃止に関する協定書の締結、東京都への廃止届の提出など、廃止に向けた手続を進めてまいりました。

財産の分配等につきましては、ビデオ、DVDは構成市町村の小中学校に希望を募り、資料の選定後希望のあった小中学校へ分配しました。16ミリフィルムにつきましては、資料的価値等を判断し、保管が必要なものはあきる野市中央図書館で保管いたします。

また、決算に伴う不用額につきましては、構成市町村で負担金の負担割合に応じて分配をしました。残金は22万5,216円、これを廃止協議書により負担金の負担割合に応じて分配いたしました。あきる野市79.6%、17万9,272円、日の出町16.0%、3万6,035円、檜原村4.4%、9,909円でございます。

当市の分配金17万9,272円は、第4回あきる野市議会定例会で補正予算を計上し、雑入として収入されております。

以上、報告とさせていただきます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

決算書はお手元の資料のほうに数値が載っておりますし、別に監査委員の意見書も添付されておりますので、よろしいかと思えます。これで全て終了でしょうか。

指導担当部長（肝付俊朗君）

そうですね。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

何かご質問ありましたら、どうぞ。

委員（宮田正彦君）

よろしいですか。

委員長（山城清邦君）

宮田委員。

委員（宮田正彦君）

資料の処分に関してですが、全部が全部そのまま保存ということではなくて、一部、ビデオテープとDVDは小中学校で保管、16ミリは資料価値のあるものを選定して図書館で保管ということになっています。小中学校は希望を募っていますが、図書館で保管する資料については、どのように価値を判断して選定されたのでしょうか。

それから、それ以外の選定されなかったものは、どういう措置がなされていくのかということをお聞きしたいと思います。

指導担当部長（肝付俊朗君）

ビデオテープは1,596本ございました。各学校に希望を募りまして、分配されたものが901本になります。そのほかの719本は廃棄という形になりました。DVD24

本については教職員研修センター等にも分けております。16ミリ発声ビデオについては559本、先ほどお話ししたように中央図書館に置かせていただくことになっております。ただ、これにつきましては、現在平井小にいらっしゃる加藤校長先生がその資料価値等を判断していただきながら、最終的には国立の近代美術館のフィルムセンターなどにも見ていただきながら、最終的に保存するものについて決定していきたいと考えております。

委員（宮田正彦君）

暫定ということで、これから増える可能性もあるということですね。

指導担当部長（肝付俊朗君）

そうです。

委員（宮田正彦君）

はい、わかりました。

委員長（山城清邦君）

決算書の表紙を除いた2ページ目に一覧表が出ていますね。

ほかにご質問よろしいでしょうか。

宮田委員、よろしいですか。

委員（宮田正彦君）

はい、結構です。

委員長（山城清邦君）

質問がないようですので、本件は報告として承りました。

それでは次に、教育委員報告に移ります。

教育長、お願いいたします。

教育長（宮林 徹君）

私のほうは、今月は議会月でもありましたので、前半は議会の一般質問等がありました。それはそれとして、12月6日の教育の日に行われた中学校の主張大会、これは毎年毎年思いますが、子供たちが頑張って、大変すばらしい主張を展開してくれていて、来た人たちにとっても大きな評価をしていただける内容だろうと思います。観客が少なかったですが、事務局のほうでもあれやこれやとアイデアを凝らして、ある程度の人数がいる中で弁論が発表されたのではないかなと思っています。点数のつけ方やいろんなことで課題は、ありますが、おかげさまで今年も無事に終わったということがございました。

それから、12月15日に、教育委員の先生方もおいでいただいて、教育委員会の感謝状の贈呈式が行われました。これは大変有効な事業だったんじゃないかなと思います。初めて行われたことですが、感謝状を受けた人たちはもう大変な喜びでした。大きな表彰には該当しないけども、実はすばらしい活動をしている人たちに対するものです。各学校の校長が周りを見渡して、ああ、この人だと思う人を挙げてきてもらうということは、これは学校にとってもいいことで、初めての事業の第1回の感謝状贈呈式でしたが、これは大変よかったなど、来年も続けていくべきだと思います。今度はもう少し人数も多くなるでしょう。校長先生方もその気になって選んできますからね。

翌日の12月16日に、学校安全講習会がありました。これは平成17年から行われています。子供たち、地域の安全安心の活動のための講習会です。大変寒い日でしたが、今

や本当にこれ定着していて、それぞれの地域にそれぞれ活躍している方々が100人近くいらして、講習会をやりました。講演を聞きましたが、地域の安全安心のためにどうしたらいいかということ、教育委員会が中心になって地域の安全安心活動を始めました。本当はあきる野市全体でやることなんですけれども、今や全体でやっているのと同じくらい教育委員会の大きな事業です。

それから、18日に学校歯科保健連絡会がありました。学校歯科の先生方に学校教育に携わっている者としてお集まりいただきました。そこで虫歯の保有率と学力はイコールだというような話題がありました。歯科医の先生方、大変熱心でありました。

それから、その翌日の19日に、秋留台高校の運営協議会に行ってきました。先ほど申し上げたように授業参観しながら、ベーシック授業を見て、なるほどと思ったりもしたところであります。

忙しい12月が無事に終わろうとしています。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

ほかの委員で、この1カ月の活動の中で何かありましたら、ご報告をお願いいたします。

田野倉委員。

委員長職務代理者（田野倉美保君）

一つは11月29日の五日市小学校の140周年記念式典についてです。本当に地域の方の思いのこもったすばらしいものだったと思います。子供たちもすごく立派にお囃子などいろいろなことをやっていました。地元に着して、地元の方々に支えられながら発展してきた学校だなというのが非常によくわかりました。また、それに答えるように先生方も当日スムーズに会を進行なさっていて、それにもすごく感銘を受けました。

もう一つは、12月14日のマールボロウの事後報告会に出席しました。ほかの教育委員の皆さんにも出席していただきましたが、今年は初めて受け入れをした中学生も全員発表する形式をとりました。生徒本人の生の声が聞けた、よかったことだけではなく、つらかったこととかコミュニケーションがうまくいなくて失敗したことだとか、そういったことも包み隠さずに本音を来場者の前で自分の言葉で発表していたのがすごくよかったと思います。聞いている人たちも胸を打たれて、涙を流している人もいたりですとか、発表者自身もその当時のことが思い出としてよみがえってきて、言葉が詰まるような場面もあったり、すごく有意義な会だったと思います。受け入れをなされた家族の方も、さまざまな苦労があったとお聞きしていますが、その苦労も含めて本当にいい経験をさせていただいたと皆さん言ってくださったのがすごくよかったかと思えます。発表者に対してさまざまな質問がありました。その中で学校対応についての質問が出た際に、学校側の受け入れ体制も年々整ってきてはいると思いますが、学校によって、あるいは同じ学校でも先生によってすごく協力的なところもあれば、全く何もしてくれなかったという、そういった厳しい意見もありました。残念ながら学校の先生方はほとんどその事後報告会に来ていらっしゃいませんでした。あの場に本当は、特に受け入れをした中学校の先生方に来ていただいて、実際に受け入れをした家族がどんな大変な思いをしたのかとか、学校側に本当は

もっとこういったことをしてほしいとか、あるいは逆にうまくいった学校ではこんなことをしているから、来年は自分の学校もこういうことやればいいんだというのをその場で直に聞くことができたと思うんです。先生方が部活動などですごくお忙しいのはわかるのですが、機会があれば、そういったところにも学校の先生方にもぜひ出席していただきたいと思いました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

丹治委員。

委員（丹治 充君）

何年前か、中学生の主張大会で臼井市長から同じ中学生が発表するときには、各学校からももう少し中学生を出席させてみたらどうだろうかというお話がありました。せっかく各学校で発表があったわけですから、場合によっては生徒会の役員に、学校のリーダーとして広い目を持ってもらう、育てるといような意味で、もう少し声をかけてみてほしいのではないかなと、そんな気がいたしました。

あと1点は、土日の行事が非常に多い中で、事務局の皆様方、休みもなくやっていたさき、本当にお疲れ様です。ありがとうございました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

宮田委員、何かございますか。

委員（宮田正彦君）

五日市小学校の式典に関してですが、今年度、各小中学校で式典が数多く行われました。式典は当然地域との協力の上で開催されるわけですが、それがほかの日々の活動にもつながっていくといいかなと思いました。特に、五日市小学校を見て思ったのは、厳しい言い方ですが、協力体制が式典のときだけだと感じました。もう少し、学校のほうからもプッシュしていいかなとは思いますが、もう少し連携して生徒の安全を守るとか、運動会の際に暑い5月頃だとどうしても子供は日射病にかかったりするので、宮林教育長が地域からテントを借りてくると一番いいよという話をされていて、そういうことがもう少しできるように地域と学校で連携があればいいなということを強く感じました。

それから、キララホールで開催された主張大会ですが、大人が聞いていても子供たちがよく考えているんだなど、それを本当に強く感じました。子供たちもちろん感じるどころがあつて主張しているわけですが、大人に対する、こういう社会にしてほしいという主張がどの生徒からも聞かれたので、本当によかったかなと思います。ぜひもっとたくさんの大人が参加していただければなと正直なところ思いました。

以上です。

委員長（山城清邦君）

私のほうからは、中学生の主張大会は、本当に大したものだなと思いました。自分が中学生のときに、ああいう場に立てたのだろうかと思うと、皆さんすばらしいなと思いました。

それから、もう一つ、全然違う角度からですが、先日うちの園の職員採用試験をしまし

た。1時間ほどで作文を書いてもらうんですが、課題として「発達障害と集団保育」というテーマで書いてもらいまして、その後面接をしました。その方は市内の中学校の出身者で、特別支援学級の固定級のある学校だったので、作文のテーマとも絡めて「あなたが中学生のときに特別支援学級の生徒さんとの交流はあったの」って質問をしたら、「全くありませんでした」という答えだったので、私の方が考え込んでしまうことがありました。やはりせっかく学級があっても陸の孤島になっているのではもったいないなという印象をそのとき改めて強く感じました。

それから、もう一つ、12月11日に、これは私的なことですが、東京都に私学財団というのがあります。高校以下の幼稚園まで含めた私立学校で構成しておりまして、定期的に研修会をやっております。たまたま人権教育研修という案内が来ましたので、行ってまいりました。東京都の小児総合医療センターの医師が「いじめへの対応」というテーマで話をしてくださいました。いじめ対策推進法に絡んで、このテーマで講演会が開催されました。行ってみて大変勉強になりました。

今後の方向性としてスクールカウンセラーが配置されておりますが、今後はもしかするとスクールソーシャルワーカーが必要になってくるかもしれないという話を聞きました。ああ、そうかなと私も強く感じたところです。家庭支援センターもありますが、地域によってはスクールソーシャルワーカーが活動しないと問題のあるお子さんとその家庭と、それからいろんな医療機関など、そういった所との橋渡しがしにくくなる時代がもうすぐそこへ来ているのかなという感じがいたしました。

私のほうからは以上です。

それでは、よろしいでしょうか。

《はい》

委員長（山城清邦君）

それでは、事務局のほうから今後の日程についてお願いいたします。

教育総務課長（小林賢司君）

それでは、今後の日程等につきましてご案内をさせていただきます。

年が明けまして平成27年1月5日月曜日でございますが、賀詞交歓会が午前11時からあきる野ルピア3階のルピアホールで開催をされます。

1月12日月曜日でございますが、成人式を秋川キララホールで開催いたします。式典は午前11時からとなっております。

1月15日木曜日は、秋多中学校の学校訪問となります。市役所を午前9時に出発しますので、よろしくをお願いいたします。

1月20日火曜日、やはり五日市中学校の学校訪問となります。市役所を9時に出発しますので、よろしくをお願いいたします。

1月22日木曜日は、東京都市町村教育委員会連合会理事研修会が午後2時から東京自治会館で開催をされます。山城委員長が理事でございますので、よろしくをお願いいたします。

1月27日火曜日、草花小学校の学校訪問でございます。市役所を午前9時に出発しますので、よろしくをお願いいたします。

最後に、次回1月の定例会でございますが、1月29日木曜日午後2時から505会議室で開催をいたします。

以上でございます。

委員長（山城清邦君）

ありがとうございました。

それでは、以上をもちましてあきる野市教育委員会12月定例会を終了いたします。

閉会宣言 午後3時12分